

「北陸地域の活性化」に関する研究助成事業
こどもたちの参加型体験学習「長野の森林を後世に引き継ごう」
～中山間地域をフィールドとしたESDプログラムの実践～

特定非営利活動法人CO2バンク推進機構

1. 本事業の目的

本研究は、子供たちが里山の整備・山仕事の体験により、森林を身近に、そして後世に継承する大切さを実感し、さらに、その整備された山から新たな林産物が生まれるという発見と感動を導出することを目的とする。

長野県長野市の小田切地区をフィールドとし、そこで里山の整備や林産物の生産・調理体験などを行い、そのときの発見や感動などを発信し、森林保全に向けた普及啓発を広めていく。



2. ESDプログラム

「国連持続可能な開発のための教育の10年」は、持続可能な開発の実現に必要な教育への取り組みと国際協力を、積極的に推進するよう各国政府に働きかける国連のキャンペーン（2005年～2014年）である。

「持続可能な開発のための教育」を表す英語（Education for Sustainable Development）の頭文字をとって「ESD（イー・エス・ディー）の10年」と呼んでいる。

ESDのエッセンス

「持続可能な社会」と「教育」



ESD = 未来をつくる教育

3. ESDのフィールド

当団体がESDプログラムを展開するフィールドとしている施設を紹介する。

- ・指定管理者 長野市青少年錬成センター

長野市の西にある「富士ノ塔山」西斜面に立ち、遠くに北アルプスの山々を望み、四季折々に変化する自然の中で子ども達の様々な活動の拠点として設立された施設である。体育館やグラウンド、研修室、宿泊室などが整備され、地元の小学校の高原学校、スポーツ団体、育成会など、多様な団体が利用している。また、自然観察や木工教室、食育などの体験イベントが毎月実施され、多くの地元の小学生や家族が参加している。



本事業はこのセンターと敷地内の林、周辺に広がる小田切の豊かな自然をフィールドとして、展開している。



青少年錬成センターと富士ノ塔山

・指定管理者「リサイクルプラザ」

長野市清掃センターの敷地内に位置しており、ごみやリサイクルの現状を学習する場、また、地元住民のリサイクル活動の拠点、地球環境を考える市民の広場として設立された施設である。資源のリサイクルや環境に関する体験イベントや展示を実施している。



・東和田情報ステーション管理運営

東和田情報ステーションは、1998年の冬季オリンピックを契機に、道路情報を提供するために設置された施設である。道路の環境や歴史について学べる体験イベントや展示を実施している。



リサイクルプラザ



4. 事業実施状況

本研究の実施状況について以下に報告する。

(1) 環境学習会

富士ノ塔山の麓に広がる雑木林や植林、農地や農村の豊かな自然環境を学習の場として、里山の手入れから木を育て、森を育てる体験学習・間伐体験、森を活用したエネルギー「ペレット」づくりなどの環境学習会を計7回実施した。参加者は、長野の森林や自然の現状を知り、それらとのつき合い方を体験しながら学んだ。

■第1回環境学習会 (2006/04/29)

コアになる学生、スタッフで環境学習会を実施。里山の自然を知り、手入れ方法やふれあい方を学習する。きのこの植菌や植樹を体験した。

参加者：35名、うち学生30名

講師：松岡保正氏

(国立長野高専 環境都市工学科 教授)

小山明氏

(当NPO副理事長、樹木医、環境カウンセラー)



■第2回環境学習会（2006/05/19-20）

地元の子ども達を対象として、春とふれあう自然体験教室を実施した。食べられる植物探しやセンター周辺の樹木の観察を行い、周辺地域で食べられている春の野草をいただいた。

参加者：77名、うち児童・生徒72名

講師：小山明氏

（当NPO副理事長、樹木医、環境カウンセラー）



■第3回環境学習会（2006/06/09）

夏に向けてのコア学生の自然体験学習を実施した。小田切地区を散策しながら、自然散策の方法（自然の楽しみ方や、自然散策の注意事項など）や地域の植物などについて学んだ。

コア学生を対象とした学習会は、コア学生の成長により、学習活動において多様なグループ構成が可能となり、学習活動の幅がさらに広がるとともに、コア学生が主体となり、情報発信やツールの開発を行えるようになることを目的としている。

- ・児童生徒のグループ学習（入門的な活動）
- ・学生のグループ学習（比較的高度な活動）
- ・児童生徒のグループに学生が混じりリーダーとなるグループ（中易度的な活動）

参加者：16名、うち学生13名

講師：堀池政史氏

（ながの環境パートナーシップ会議 代表）



■第4回環境学習会（2006/07/07-08）

地元の子ども達を対象として、夏とふれあう自然体験教室を実施した。小田切の自然や生態系、周辺に生息する動物の足跡探しや植物観察を行った。コア学生が児童生徒とともにグループを構成し、イベントのサポート役として児童生徒に教えながら活動した。

参加者：78名、うち学生14名、児童・生徒55名

講師：松岡保正氏

（国立長野高専 環境都市工学科 教授）

小山明氏

（当NPO副理事長、樹木医、環境カウンセラー）



■第5回環境学習会（2006/08/19）

木を育て、森を育てる体験学習会を実施した。敷地内の枯れたカラマツの伐採や、幼苗植栽の間伐などの活動を通じて、森林の手入れ方法やその効果を体験した。また、長野県の森林の現状や地球温暖化について、講義や周辺の植林地を見ながら学習した。

参加者：27名、うち児童・生徒 8名
講師：杉山要氏

（NPO法人信州そまびとクラブ副理事長）



■第6回環境学習会（2006/09/02）

森林整備と木を使う知恵についての体験学習を実施した。敷地内のスギ林の間伐を行った後、昔ながらの方法で木の皮を剥いたり、巻き割り機や破砕機などの林業機器を使って木を細かく砕いたり、昔と今の知恵や技術を使いながら、ペレットの材料づくりを行った。

参加者：21名、うち学生1名、児童・生徒5名※1

※1 連続参加できる家族を中心に SBC信越放送による取材と編集により、15分番組2回、30分特別番組1回を放映。

講師：原島幹典氏

（岐阜県立森林文化アカデミー教授、
地域林業研究会代表）



■第7回環境学習会（2006/09/17）

ペレタイザーを使ったペレットづくりを行い、自分たちで作った森のエネルギーを体験する学習会を実施した。第5回、第6回の環境学習会で作った材料をもとに、ペレットを作る最終段階。自分たちで倒した木がペレットになるまでを観察し、出来上がったペレットをペレットストーブで燃やし、森のエネルギーを実感した。

参加者：26名、うち児童・生徒4名※1

※1 連続参加できる家族を中心に SBC信越放送による取材と編集により、15分番組2回、30分特別番組1回を放映。



(2) その他の活動

長野市青少年錬成センターでは、中山間地域特有の自然環境を活かした環境教育や環境学習、伝統的な文化の継承といった機能を活かした食育体験（おやき、やしょうま、正月料理づくり）や工作体験（竹スキー、しめ縄づくりなど）等を実施し、市街地に住む子どもたちに地元の自然、伝統や文化を知る貴重な体験の場を提供している。本事業で活動しているコア学生についても、環境学習の実践の場として、また、一般の参加者（主に児童）とのコミュニケーションやふれ合いの場として、それらのイベントに参加した。

●環境教育

日中の野鳥観察や夜間の星空観察会など、季節ごと、日中・夜間など、タイムリーな話題を織り込んだ環境教育を開催している。



●環境学習

ソーラークッカーでお湯を沸かしたり、化粧炭を作るなど、体験・実感できる環境学習プログラムを開催している。



●食育体験

季節の野草・山菜を調理したり、地元の郷土食、外国の料理を体験するなど、食を取り入れたプログラムを開催している。

また、敷地内には野外自炊場も整備されており、高原学校や育成会、家族グループなどで、野外炊飯・バーベキューが楽しめ、コミュニケーションの場となっている。



●工作体験、陶芸教室

昔ながらの竹スキーづくりやしめ縄づくり、地元のりんご農家からいただいた剪定枝を使った鉛筆づくりなど、地域の文化や自然を感じるイベントを開催している。



●スポーツ・レクリエーション

体育館やグラウンド、アスレチックでスポーツやレクリエーション活動を行い、利用者同士のコミュニケーションを図っている。



●コミュニケーション

世代間・地域間を結び、子供たちと、外国籍の方・障害を持った方を含め多くの利用者、関係者が相互理解と交流を、プログラムを通じて図っている。



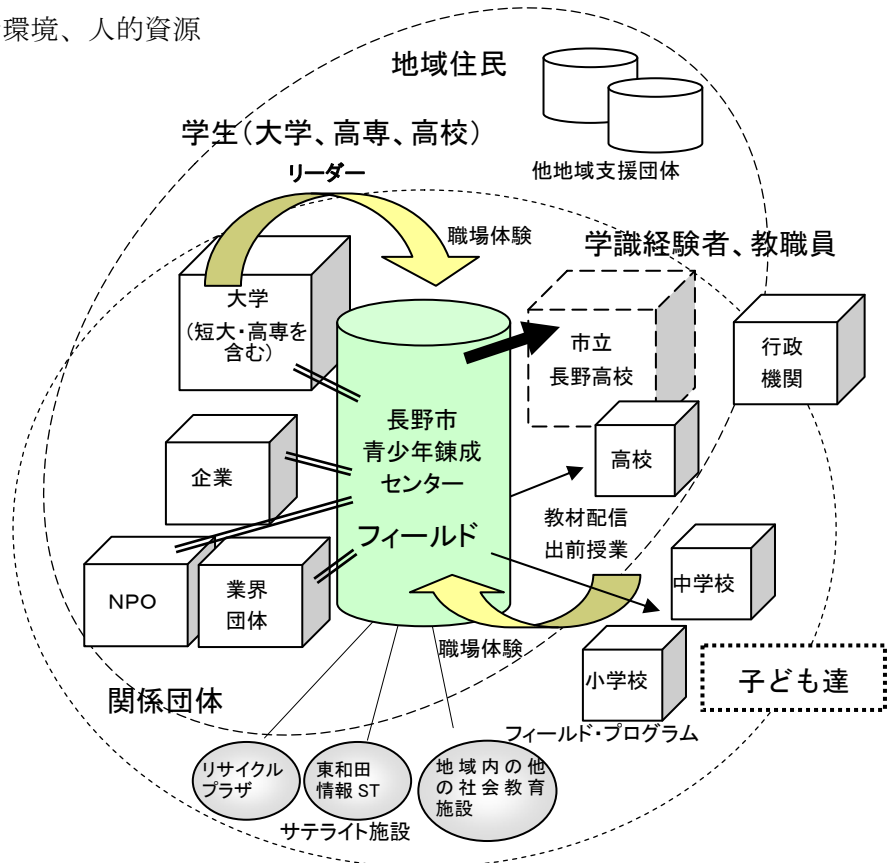
5. まとめ

本研究を通じて、長野県北部地域（北信地域）の市街地と中山間地の接点に位置する『長野市青少年錬成センター』を拠点とした、地域に根ざしたESDフィールドの活用と、地元の学生や学識経験者、地域住民等によるネットワークを構築するための基礎資料ができた。

また、この活動のコア学生となる地元の学生（国立長野高等専門学校、長野市立皐月高校、長野県立坂城高校の生徒）については、環境学習会で知識やコミュニケーション力の向上を図るとともに、公募による参加者（主に小学生）を対象としたイベントの運営サポート役として参加することにより、実践的な人材育成を展開することができた。

北信地域はESDを展開する上で有益な潜在的な教育資源（自然環境、社会環境、人的資源等）を多数有している。

これらの潜在的な教育資源をうまく結びつけ、子ども達の参加型体験学習の持続的な展開へと発展させることができれば、都市と農山村の循環型ネットワークを基調とする持続可能な社会を展望しうる形で、地域を拓く人材を育成することが可能になると考えられる。



子ども達の参加型体験学習の持続的な展開 概念図